

そのメロディに魅せられて

「猫の皿」(『柳家小三治I〜「猫の皿」・「長短」』収録) 柳家小三治 K7ヤ10708 篠崎ほか所蔵

猫が演題に使われている噺はいくつかありますが、今回は十代目柳家小三治の「猫の皿」をご紹介します。落語会などでの噺のマクラ(演目に入る前の導入ばなし)のみを集めた本が出版されるほどマクラに定評がある小三治。本作でも、シャンソンを歌うはめになった話から始まり、次々と話題が変わっていく小三治節

を堪能できます。笑ったり感心したり、その話もって聞きたいな〜なんて気持ちよく聞いていると、いつの間にかスルッと演目の世界に入っていました。ふと立ち寄った茶屋で猫がエサを食べていた皿に目をつけた江戸の道具屋。一見朴訥な茶屋のおやじとのやりとりを是非ご堪能ください。

スタッフのセレクション!

ケリー・ギャングの真実の歴史

ピーター・ケアリー著 宮木 陽子訳 早川書房 933カ 篠崎ほか所蔵

主人公ネッド・ケリーは、オーストラリアの国民的英雄ともいえる実在の無法者だ。アイルランドから流刑にされた元囚人である父親と、流刑者を一族にもつ母のもと、長男として1854年に生まれた。ネッドが暗躍したのはアイルランド系住民に対して不当な差別が横行する19世紀後半のイギリス植民地・オーストラリアであり、彼が生涯をかけて闘った相手は官憲や地主の横暴・不正だった。公正と正義を訴え続けるその反抗精神ゆえに、盗賊団の首領でありながら生前から義賊として貧民の支持を得るものの、1880年に逮捕、処刑された。

本書の主要な部分は、ネッドがまだ見ぬ娘へ宛てた手紙という形をとって書かれている。物心がついた最初の記憶から、後に逮捕と処刑に至る銃撃戦の直前までの生涯が、彼の言葉で順に語られる史実にもとづいた小説だ。

ネッドの生活は生まれた時から悲惨だった。両親や幼い兄弟を侮辱する警察や住民たち、あまりにも貧しい暮らし。幼少期には父親の仕事を手伝い、父親が病没した後は母親が苦勞して手に入れた土地を守るため苦心した。青春を投げうっても小農民として真面目に働こうとするが、いつも多くの壁があり、それらは家族のみならず親戚や友人を巻き込み、まさに死ぬまでつきまとった。苦難を語る悲痛な言葉の裏側には家族を想う責任感と、ど

篠崎図書館スタッフが選んだ
おすすめ本を紹介します。

んなことがあっても人を裏切らず、卑怯者にならず正しくあろうという意志がある。ネッドの心は決して折れない。酷い仕打ちを繰り返されてもおお屈服しない。こんな人間がいるのかと私は信じられなかった。

しかし無実の罪で捕えられ、虐げられている人たちのため闘ううちにやがて本当の無法者となる。彼を追う警察官をついに撃ち殺してしまった時には、ネッド自身が嘆くのとじくらしいに私も悲しい思いがした。それまでの手紙の内容から、彼の平穏な生活への渴望を知っていたからだ。「おれがなりたかったのはただふつうの市民だ」、いよいよ世間に悪名が知れた後も、自分と仲間の正当な権利のために闘い続けた。

取り返しのつかない罪を犯してしまった彼を英雄と捉えるかどうかは読み手によるだろう。けれども、もし私たち自身や、家族や友人が不公正のために苦しんでいたら、きっと多くの人が憤りを覚えるに違いない。立ち向かうとする人やぐっとこらえる人たちの傍に、ネッドのような人物がいたらどう感じるのだろう。ネッド・ケリーの生涯が今でも大勢の胸を打つのは、正義のために勇敢でありたいと願う心を人々が持っている証だと思うのだ。人は強く、誇り高く生きられるということを、彼の生き様が教えてくれる。

編集後記

今年こそ、やせます。全集中! ふわふわの呼吸で。(風雲ふわふわ丸)／寒い冬、カモミールの入浴剤であったまっています。(ぱるめりん)／お雑煮、きな粉、磯辺焼き…別腹出現! 欲張りです。(モシャリー)／髪がパサつくお年頃で…ホババオイルトリートメントにチャレンジ中。(ちゃしこ)／寒い日は、家で好きなことをしながらまったり過ごしたいです。(すずの木)

編集・発行: 江戸川区立篠崎図書館
住所: 〒133-0061

江戸川区篠崎町7-20-19 しのぎ文化プラザ内
TEL: 03-3670-9102
[しのぎ文化プラザホームページ]内篠崎図書館ページ
<https://www.shinozaki-bunkaplaza.com/library/>

2021年1月1日発行(季刊)

図書館報

ぷらっつ

★篠崎

068号

江戸川まいにんぐ 発掘 第68回

地名の由来 ~篠崎~

かつて、江戸川河口の長島湊からさかのぼり真間(市川市)の入り江に通ずる航路の要地だったのが現在の篠崎です。篠崎の地名は、「砂州上の土地でしかも篠竹の茂っていた土地」であったことが由来とされています。地元の竹を使用して作られた篠崎^{ざる}箆、篠崎^{むしろ}筵が名物でした。1889年(明治22年)の市制町村制施行によって上鎌田村、伊勢屋村、下篠崎村、上篠崎村、笹ヶ崎村、鹿骨村字向田の飛地が合併して篠崎村となり、1932年(昭和7年)の江戸川区誕生とともに、上篠崎町、下篠崎町、東篠崎町、西篠崎町、北篠崎町、南篠崎町に編成されました。(読みは“しのぎまち”です)

普段は閑静な住宅地ですが、江戸川区花火大会では絶好の観覧場所として篠崎公園が利用されるので、この日に限っては道路に人があふれるくらい賑わいます。

注1 妙見島のあたり。豪族長島氏の城があったとされる。

注2 群がって生える竹や笹の総称

参考資料

「地名のはなし」江戸川区教育委員会社会教育課
文化財係著 RK1-29 篠崎ほか所蔵
「江戸川区史 第1巻」江戸川区区史編纂室編
K1-21-1 篠崎ほか所蔵
「江戸川区史全」東京都江戸川区役所編
東京都江戸川区役所 RK1-21 篠崎ほか所蔵

しのぎ文化プラザホームページ内 篠崎図書館ページ

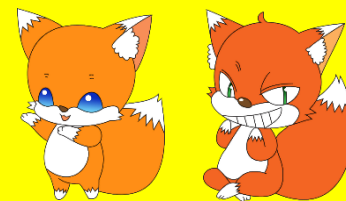


しのぎ
文化プラザ



掲載内容

- ・イベントや特集展示の情報
- ・ブログ
- ・図書館報ぷらっつ☆篠崎のバックナンバー
- ・特集展示リスト など

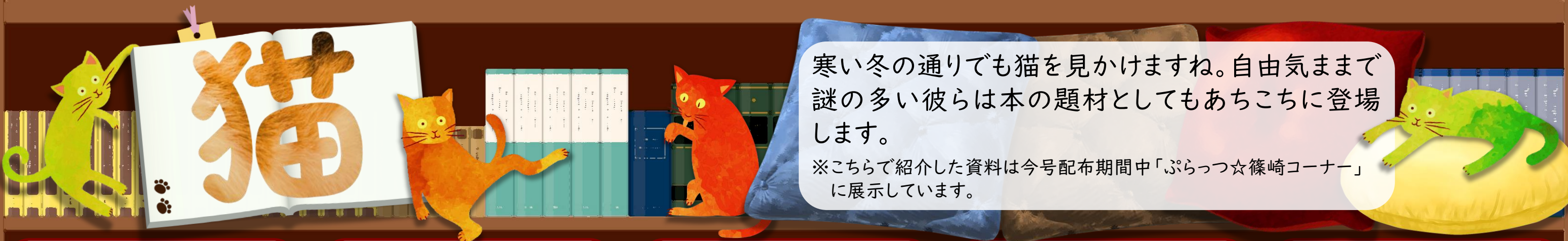


篠崎図書館公式
Twitter

イベント、展示の
情報や本の紹介等を発信
しています



Twitterアカウント
@edolibshinozaki



寒い冬の通りでも猫を見かけますね。自由気ままで謎の多い彼らは本の題材としてもあちこちに登場します。

※こちらで紹介した資料は今号配布期間中「ぷらっつ☆篠崎コーナー」に展示しています。



こんなふうに住ければいいにゃん

海原 純子著
海竜社
159ウ
篠崎所蔵

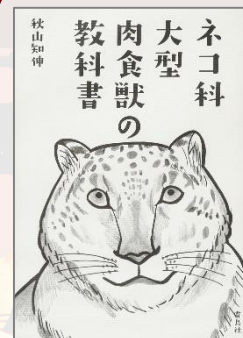
心療内科医の著者が猫たちとの同居生活から教わった50の生き方のコツを紹介。「ネコは無駄な労力は使わない」「どんな環境でも自分で楽しみを見つける」。猫の生き方には、人や物事への心地よい関わり方のヒントがありそうです。可愛い写真にも癒されます。



猫神さま日和

八岩 まどか著
青弓社
387ヤ
篠崎ほか所蔵

日本各地の猫を祀っている神社仏閣を、由来や逸話などを交えて紹介しています。福を招いたり、恩返しをしたり、化け猫になったりと祀られる理由は猫それぞれ。開運招福や学業成就などのご利益もいただけるので、本書片手に訪ねてみてはいかがでしょうか。



ネコ科大型肉食獣の教科書

秋山 知伸著
雷鳥社
489ア
篠崎ほか所蔵

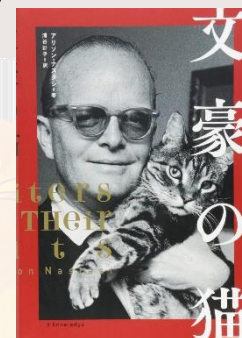
野生動物好きの著者は、全7種類の大型ネコ科を見るべく、最後のユキヒョウを追って、7年間で3回ヒマラヤの地へ赴きます。全種類を見つけるまでの波瀾万丈な旅の記録と、各ネコ科のおもしろQ&A集です。ネコ科は大型でもやっぱりネコだとわかります。



猫はこうして地球を征服した

アビゲイル・タッカー著
西田 美緒子訳
インターシフト
645タ
篠崎ほか所蔵

大型ネコ科動物の個体数が減る一方、イエネコは人間を手なづけ、生態系に侵入し、都市でも野生でも増え続けている。今やネットのコンテンツとしてサイバースペースまで掌握する小さな征服者の秘密を、人が彼らに抱く理想を時に壊しつつ多様な視点から解き明かす。



文豪の猫

アリソン・ナスタシ著
浦谷 計子訳
エクスナレッジ
902ナ
篠崎ほか所蔵

生涯500匹の猫の面倒をみたという大仏次郎、飼い猫を預かってもらったお礼に執筆したのが「ノルウェイの森」だったという村上春樹。愛猫とともに収まる文豪の写真に様々なエピソードを添えて紹介。



猫俳句パラダイス

倉阪 鬼一郎著
幻冬舎
911.3ク
篠崎ほか所蔵

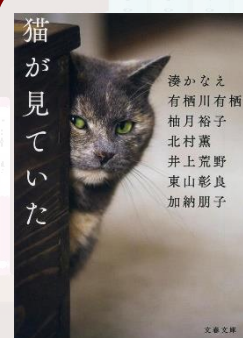
「ランボーを五行とびこす恋猫や／寺山修司」など147の表題句はもちろん、数百の引用句にも全て猫が出てきます。猫はこんなにも世界に溶け込んでいるのだな……としみじみ実感。猫をとりまく様々な情景の豊かさが味わえるアンソロジーです。



にゃん!

あさの あつこ著
白泉社
Fア
篠崎ほか所蔵

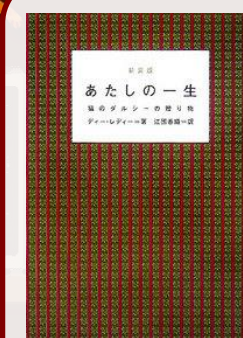
主人公・お糸が奉公する鈴江藩の奥方・珠子は猫一族の姫だった! 鈴江藩乗っ取りを画策する藩主の叔父と怪し狐の魔の手が珠子に迫る。お糸は愛する珠子のために戦うことを決意し——。珠子をはじめ、登場するキャラクターが可愛いのでほっこりします。



マロンの話 (『猫が見ていた』所収)

湊 かなえ著
文藝春秋
BFネ
篠崎ほか所蔵

野良猫で人なつっこいわけではないけれど、人の気持ちを理解しているかのような様子で人間を虜にしようマロン。野良からおばやん一家の一員になるまでの小説なのだが、読み進めていくと、これは実話なのか?と思えてくる。ではこの飼い主、おばやんって……。



あたしの一生

ディー・レディー著
江國 香織訳
飛鳥新社
933レ
篠崎ほか所蔵

飼い主を「あたしの人間」と呼び、決して媚びたりしない猫のダルシー。人間と暮らした生涯をダルシーの視点で描く物語。嫉妬や失望を感じるときでさえ互いの関係を疑わず飼い主への一途な想いを貫くその姿に、猫とはこんなにも深い愛情をもっているのかと胸を打たれました。



ネコピア

ローラン・ミヨ著
橋本 たみえ訳
幻冬舎
953ミ
篠崎所蔵

残酷な方法で猫を殺すのが趣味の幼い少女アスカには、周囲の皆お手上げだ。しかし支配者・帝の、自分を暗殺した者を後継者にするという遺書がきっかけで、人々はアスカに帝を暗殺させるべく誘導を試みることに……。混沌とした世界を風刺する不条理劇。